

JIS

パルプーろ水度試験方法ー 第1部：ショッパ－・リーグラ法

JIS P 8121-1 : 2012

(JAPAN TAPPI/JSA)

平成 24 年 6 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 紙・パルプ技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	岡 山 隆 之	東京農工大学
(委員)	江 前 敏 晴	東京大学
	大久保 友 恵	レンゴー株式会社
	大 場 悟	全国クラフト紙袋工業組合
	熊 谷 泰	熊谷理機工業株式会社
	斎 藤 芳 廣	北越紀州製紙株式会社
	桜 田 裕 之	日本大昭和板紙株式会社
	佐 藤 達 也	三菱製紙株式会社
	鈴 木 由紀子	王子製紙株式会社
	関 順 子	日本製紙株式会社
	外 口 裕 章	株式会社東洋精機製作所
	中 川 好 明	日本製紙連合会
	中 村 亜希子	株式会社日本紙パルプ研究所
	生 原 道 夫	大日本印刷株式会社
	浜 村 政 博	日本紙パック株式会社
	広 岡 克 己	株式会社小学館
	宮 西 孝 則	紙パルプ技術協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 24.6.20

官 報 公 示：平成 24.6.20

原 案 作 成 者：紙パルプ技術協会

(〒104-8139 東京都中央区銀座 3-9-11 紙パルプ会館 TEL 03-3248-4841)

一般財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 稲葉 敦)

審議専門委員会：紙・パルプ技術専門委員会 (委員長 岡山 隆之)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット環境生活標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 原理	2
5 器具及び水	2
6 試料の調製	2
7 操作	3
8 計算及び結果の表し方	3
9 報告書	4
附属書 A (規定) I形ショッパー・リーグラる水度試験器	5
附属書 B (規定) I形ショッパー・リーグラる水度試験器の保守	9
附属書 JA (規定) J形ショッパー・リーグラる水度試験器	10
附属書 JB (規定) J形ショッパー・リーグラる水度試験器の保守	13
附属書 JC (参考) JIS と対応国際規格との対比表	14
解 説	16

まえがき

この規格は、工業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、紙パルプ技術協会（JAPAN TAPPI）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。

これによって、**JIS P 8121:1995** は廃止され、その一部を分割して制定したこの規格に置き換えられた。この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JIS P 8121 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS P 8121-1 第 1 部：ショッパー・リーグラ法

JIS P 8121-2 第 2 部：カナダ標準ろ水度法

パルプ—ろ水度試験方法—

第 1 部：ショッパー・リーグラ法

Pulps—Determination of drainability—Part 1: Schopper-Riegler method

序文

この規格は、1999 年に第 2 版として発行された ISO 5267-1 を基とし、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JC** に示す。

1 適用範囲

この規格は、パルプ水懸濁液のショッパー・リーグラろ水度試験方法について規定する。

ショッパー・リーグラろ水度試験とは、希薄なパルプ懸濁液の水切れの程度を測定するものである。ろ水度は、繊維の表面状態と膨潤とが関係しており、パルプが受けた機械的処理の程度を表す有用な指標である。

原理的には、この方法は全てのパルプ懸濁液に適用できるが、金網上に十分に密な繊維マットを形成できる場合にだけ、信頼できる値を得ることができる。このことから、高度にこう（叩）解した広葉樹のように過度に短繊維化したパルプでは、繊維のほとんどが金網を抜け、実際よりもショッパー・リーグラろ水度が低下することから、この試験方法は推奨しない。信頼性の高いショッパー・リーグラろ水度の範囲は、 $10^{\circ}\text{SR}\sim 90^{\circ}\text{SR}$ である。

なお、この試験の結果は、工業的な抄紙機におけるパルプ材料のろ水挙動と必ずしも相関するものではない。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 5267-1:1999, Pulps—Determination of drainability—Part 1: Schopper-Riegler method (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1 に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS P 8220-1 パルプ—離解方法—第 1 部：化学パルプの離解

JIS P 8225 パルプ—紙料の固形分濃度測定方法

注記 対応国際規格：ISO 4119:1995, Pulps—Determination of stock concentration (MOD)

JIS Z 8801-1 試験用ふるい—第 1 部：金属製網ふるい